



「降伏ビラが落ちて来た」

此の図面は、昭和20年8月10日、即ち、原爆投下の
習日の事でした。

私達は、住吉のトンネル工場で一夜を明かした。

女子挺身隊、勤員学徒、徴用工等30名ばかりの人が、
トンネル工場を出発したのが夜が明けた午前5時30分
頃の事でした。

皆さんは、隊列を作って現在の住吉神社の裏手の
山道を通って倒れかけた三義兵衛大橋を右手に見ながら
現在の昭和町方面へと急ぎました。途中でアチコチの防空壕で
“水をくれ、水をくれ”とたのまれましたが、私達は水筒
一つも持っていなかったため、水を与える事は出来ませんでした。

それから、現在の三川橋を渡って山道を現在の西山台
に向って道を急ぎました。

午前8時頃でした。きらきら光っている青空より数百、
数千枚にも及ぶビラが舞い降りて来ました。

ところが、これを拾いあげてみると、

「日本国民に告ぐ」との降伏勧告ビラでした。

(別紙)

私共はこれに心んがいしてこのビラをいも畠に踏みつけ
“これはデマだ、デマだ”と叫びました。

それから、現在の西山台から西山水源地の方へ下って行き
ました。途中で、数回に及んで敵機が来ましたのでその度に
防空壕に逃げ込み、諏訪神社の近くまで下りて来たのは、
午後1時頃の事でした。ここで皆さん解散してそれぞれの
自宅へと急ぎました。

◎証言者 辻原 津田子(64才) 深城 勇(71才)
長崎市 入船町 267 長崎市 上野町

このビラが原爆投下前後として展示してあります。

私達友の会に於いては、数万人の会員をもつ30年にも及び被爆
者救援運動、及び平和運動を實踐して来ましたが、原爆投下前に
このビラを拾った人は、1人もいませんでした。原爆投下前であれば、
皆さんは当然避難しているはずであり、10万人に及び焼死者は出なかつた
事でしよう。そこで問題を重視した友の会においては、2年間に亘つて
徹底的な追跡調査を致しました。なかでも原爆当時救援隊員として、
オー線を指揮した友清 勝己次(友の会長町支部長)の自宅を尋ねて
聞き取り調査をいたしました。被爆50周年にあたる平成7年になって、
木田公文書館において発見された文書に原爆投下の時間後に、この
降伏ビラを投下するためにテニアン島の基地を出発したと記載されて
あります。
この様な重大な記録を展示する場合には僅か数人の人が
決定する事は、大きな間違いであると思ひます。

市民退去ビラの行方

即刻都市より退避せよ

日本国民に告ぐ!!

このビラに書いてあることを注意して読みなさい。

米國は今や何人もなし得なかつた極めて強力な爆薬を發明す
るに至つた。今回發明せられた原子爆弾は只その一箇を以てし
ても優にあの巨大なB-29二千機が一回に搭載し得た爆弾に匹
敵するこの恐るべき事實は諸君がよく考えなければならぬこ
とであり我等は誓つてこのことが絶対事實であることを保証す
るものである。

我等は今や日本々土に対して此の武器を使用し始めた。若し
諸君が尚疑があるならばこの原子爆弾が唯一箇広島に投下され
た際如何なる状態を惹起したか調べて御覽なさい。

この無益な戦争を長引かせている軍事上の凡ゆる原動力を此
の爆弾を以て破壊する前に我等は諸君が此の戦争を止めるよう
陛下に請願することを望む。

米國大統領はさきに名譽ある降伏に関する十三ヶ条の概略を
諸君に述べたこの条項を承諾しより良い平和を愛好する新日本
の建設を開始するよう我等は徳意するものである。諸君は直ち
に武力抵抗を中止すべく措置を講ぜねばならぬ。

然らざれば我等は断乎この爆弾並びに其の他凡ゆる優秀なる
武器を使用し戦争を迅速且強力に集結せしめるものであらう。



被爆惨状絵図 ㊦㊧号

「七高生 大いに暴れる」

この画面は、昭和20年4月、勤労学徒として、鹿児島県の
才七高等学校が、三菱兵器大橋工場に配属されました。

その数200名程度の学生でした。(土屋前・鹿児島県知事も来ていたと
云っておられました。)

三菱兵器大橋工場㊦㊧門(現長大正内)を通って、弊衣破帽の
七高生隊列を作って、道一杯はたがって歩く姿は、異様なものでした。
まるで暴力団の行進のようでした。

その頃でも高下駄をはいて、雨の日は、みゆを肩にかけて、雨傘は
持ちませんでした。そのまぎまぎに皆さん驚いておりました。

三菱兵器工場の人気者にすぐにのしかかり、中学生などは
その弊衣破帽をまねして、自分になる人もおったくらいでした。
ところが、20年6月頃、各地の工場が爆撃の被害で、部品の
調達がおくれて、仕事がない日々が続いたときがありました。

そのとき、七高生が本を読んでいたそうです。ところが工場の
守衛が「工場に来て本をよんでいるとは、何事だ」守衛の詰所に
連行して叩いたのでした。そこで件の七高生「学生が本を読
んで何が悪い。私ども学生が来ているのは、貴方達の手伝いだ。
学生が本を読むのは本分だ」とやり合い、遂には、工場側と

大げんかになり、2日間のストライキとなりました。

最後には、工場側が、わびを入れ終結しました。

この要因は、守衛が、小學校卒のため、社会に出れば、自分達
より出世する学生を今のうち、いちめておこうとする、万年上等兵
の根性でした。

◎ 証言者 深 堀 勝 一 (69歳)

長崎市 坂本

長崎県被爆者手帳友の会々長



被爆惨状絵図 ㄨ37号

「 B29 黒煙を吐いて、長崎上空を！」

この画面は、昭和19年11月21日の午後3時頃のことであった
と思います。 B29が、高射砲に被弾して黒い煙を吐いて、
長崎市上空を高度1,500米程の高さをゆっくりと北東方面へと
飛来して行きました。

私は、坂本町ノ丁目47番地の自宅の防空壕から飛び出して、手を
叩いて喜んだものでした。

翌朝、新聞を見ると、小長井町井崎の沖合500木の地点で
落ちたようで、乗員11名全員が死亡したようで、友の会森藤岩さん
証言で遺体が海岸に流れて来たそうでした今日、部落の人達で
慰霊碑が作られているそうです。

◎ 証言者 深堀 勝一
森 藤 治 (当時 18歳)
長崎県 小長井町 [REDACTED]



被爆惨状絵図第38号

「輸送の産業戦士(馬ちゃん)浦上駅前^に戦死する」

この画面は、昭和20年8月9日、午後4時頃のことでした。

浦上駅前には、日通の馬車が常に数頭待機しておりました。その馬ちゃんが原爆に会って足を天に向けて死んでおりました。ただでさえからだが大いのに更にはれあがっていたため、大きな図体でした。(証言者の氏名は 忘れまして)

私は、現川町から8月10日の午前8時頃、浦上駅前の救援隊として、この現場をみました。

人も馬も死亡し、^{ハエ}煙がたかっており、この悲慘さは目をおおうばかりでした。(金原 勇 証言)

私は、8月10日午前11時頃浦上駅前を通過して御船蔵町の自宅に帰る途中、この場面を見ました。

又、製鋼所の野炭場が赤々と燃えておりました。

(水江 オケ 証言)

私は、三菱造船からの帰路、浦上駅前を通り過ぎたが、「水を水を」と叫ぶ人もあり「助けてくれ」と云う人もあり。

この在の地獄でした。◎証言者 金原 勇 長崎市現川町

◎追伸 この画面にある大きな煙突は、水江 オケ 御船蔵町
浦田 健一 橋口町

ひとさわ高い煙突で、後日、アメリカ軍が、現在の市営陸上グラウンドに飛行場を作った際、飛行に支障があるので爆破されました。



被爆惨状絵図オコサ

「さげすんでいた朝鮮人に助けられて」

この絵画は、昭和20年8月7日午後5時頃のことでした。私は、原爆投下により、全身に負傷して、三菱兵器大橋工場ヤ一仕上工場より、オ三门を出て西町の防空壕にやっと逃げこみました。

それは、三歩行って倒れ、五歩行って倒れて、まるで映画をみるような恰好で逃げ込みました。

ところが、4時頃になると、トンネル工場前を救援列車が出たということと防空壕内で聞きました。

そこで、起き上って、鉄道線路まで、歩いて行こうと思いましたが、さきほどまで歩いて来たが、もう歩くことが、できませんでした。そこで、何人かの日本人に頼んだが断られました。このままここにいたら出血多量になって死んでしまうと思いました。そこで思いあまって、通りがかりの朝鮮人に頼んだわけでした。ところが、その朝鮮人、「ああいいですよ」と簡単に引き受けたのでした。それからしばらくして、2人の朝鮮人がリヤカーをもってきました。私は、このリヤカーにどこから持って来たかと不思議でした。露心地から1400米の地点で、よくまあリヤカーがあったものだなあ……と、

私はお陰様で、間もなく到着した救援列車オコサ子に収用されたわけで、午後10時頃には、大村海軍病院に入院しました。

私はこの朝鮮人に助けてもらわねば、出血多量で死んでいただろうと思いました。

私は、朝鮮人と云えば、さげすんでいた、私も日本人のことを思うとき、非常にはずかしい思いをしました。

それから、どこの国の人であろうとも、どんな人であろうとも、誠心誠意対応して行かねばならぬと決意しました。

私が被爆者運動、平和運動をはじめたのも、神様より、この運動をするように生き残されているものと思い、この運動を終生続けたいと思っています。

◎ 証言者 深堀 勝一 (68歳)

長崎市 坂本

長崎県被爆者手帳友の会会長

(後日談)

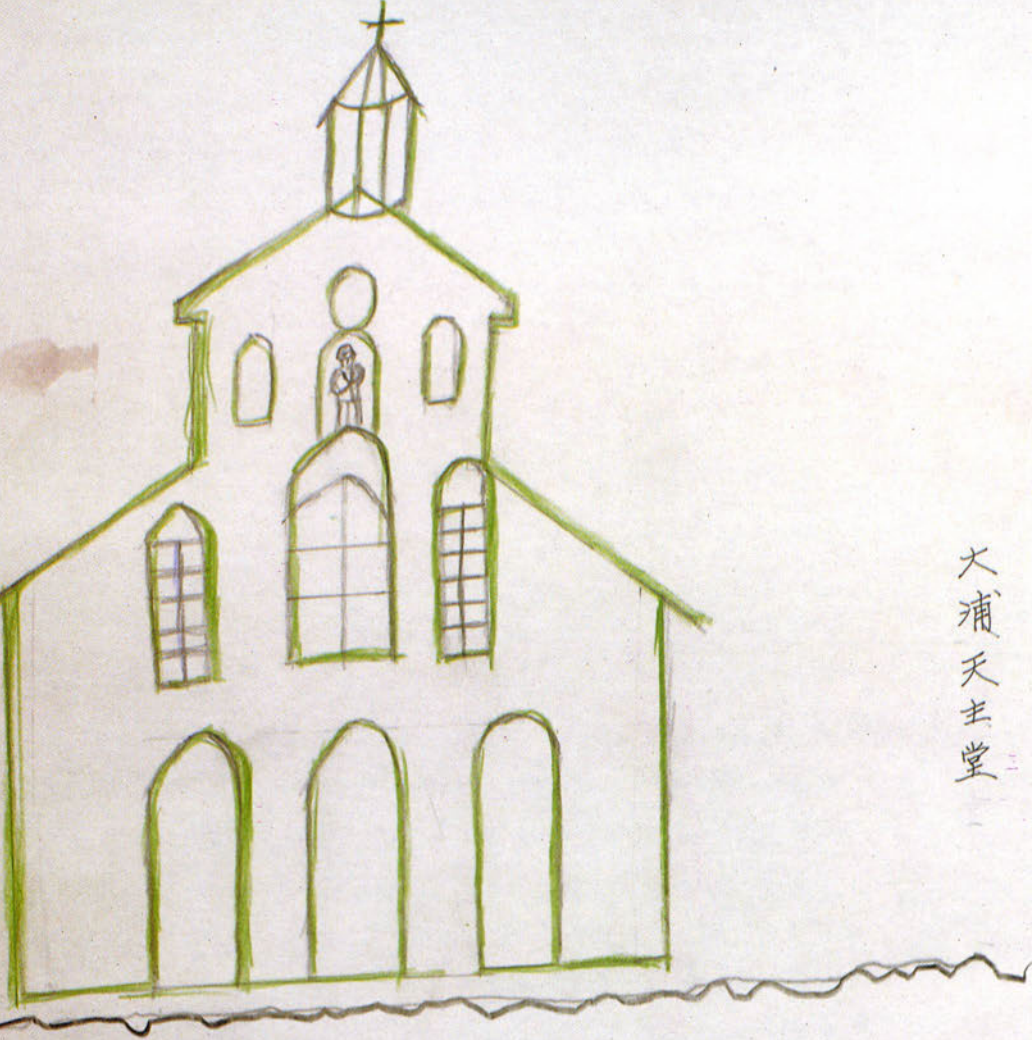
平成8年3月に、友の会本部2階会議室において被爆惨状絵図教室において、長崎市西町支部副支部長 山川 米雄さんから、会長が乗っていた、あのリヤカーは実は私の家のリヤカーで、あつたと証言されました。「私の家にはリヤカー5台があって、農業用に使用していたそうです。

そのうち、4台が家において焼け、あとの1台が畑の中の小屋にあつた為、焼けずに残っていたそうで、あのリヤカーを深堀会長が救援列車まで運ばれたと云うことが判り、大笑いでした。私もあの時リヤカーはどこから持って来たのか、不思議でなりませんでした。

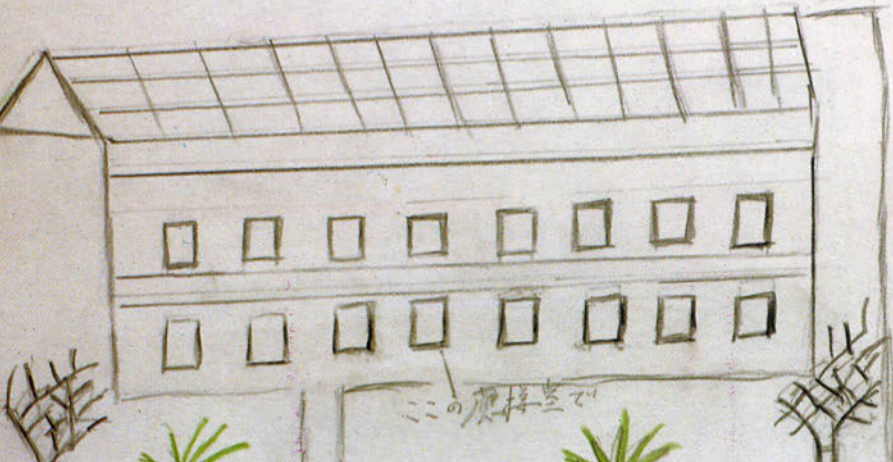
因くところによりますと、原爆が投下されたとき、あの朝鮮人達は、西町附近において、防空壕掘りをしていたので、畑の中で健在であるリヤカーを知っていたものだと言判りました。

そのために、翌8月10日 山川 米雄さんのお母さんが道の尾崎漁所に行くために、親せきの大八車を借りて行ったそうです。

誠に気の毒な話でした。

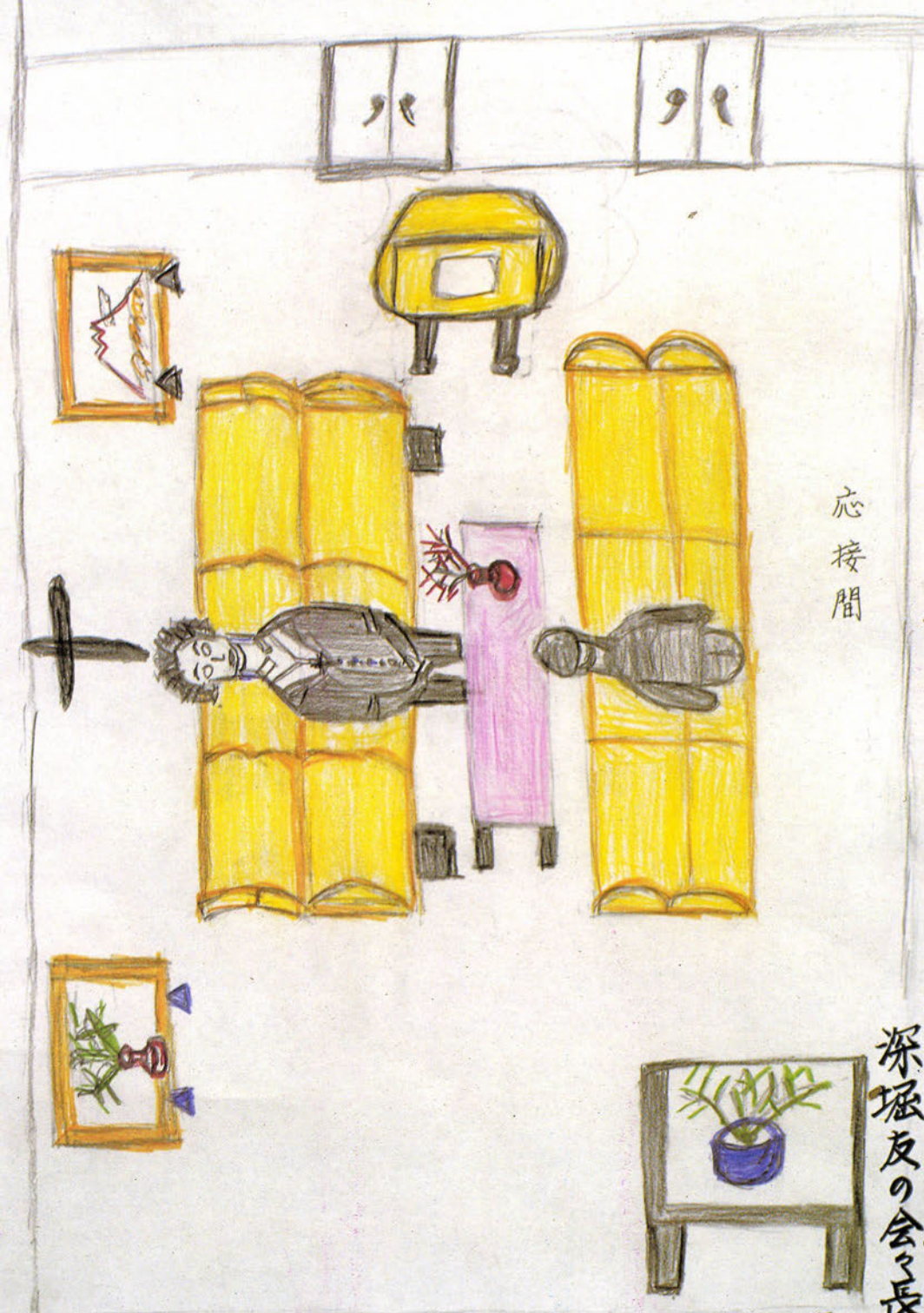


大浦天主堂



この廊下で

司祭館



応接間



深堀友の会会長

被爆惨状絵図 ㊦40号

「浦上天主堂の存置運動についての経過」

この画面は、昭和32年6月頃のことです。私は浦上天主堂の残がい、残すべきで、長崎県動員学徒犠牲者の会（昭和32年11月10日）の発会前のことでしたが、この問題については、重大な関心を持っていて、N・G・Kの私達のことばかりにも、浦上天主堂の存置を訴へて、全国放送により、発信していただきました。

このような経過で、私は大浦天主堂に山口大司教を訪ねたわけでした。私はまづ、「浦上天主堂の残がい、後方に残すべきで、ポンペイの遺跡にも匹敵するものです」と陳情したのでした。

ところが、山口大司教は、「お前は誰の息子が？」ああ、そうか！「その人ならよく知っているぞ」と、云われた。

なんでも、うちの母の実家と近所だったのでよく、私の家のことも知っておられました。

続いて、貴方の考え方と全く同感で、その際に長崎市の方に浦上天主堂の後方の土地を買って頂ければ天主堂を後方に引いて建てますので、と申し入れをしており、「もう五年にもなるが返事が無い」と云っておられました。

「私も高令者となったので、米国など行脚して、教会建設の寄附をもらわねばならぬので、もう時間的余裕がない」とも云われたので、私もこのような事情なら止むを得ないと思いました。

当時の土地の価格なら、1000坪で1,500万円位の金だったと思います。

後年私の女房がイタリアを旅行してポンペイの遺跡をみて、「勿体なかったなあれを残しておけば、世界的遺産になったであろう」と嘆いておりました。

それは山口大司教と、田川務市長の見識のちがいがこの様な結果となったと思います。

山口大司教は、若い時ローマの大神学で学び、ヨーロッパ諸国を歴訪して、遺産遺品に対する価値観を身につけていた、と思います。

田川務市長は、小学校出身で弁護士になられた人でした。

しかしながら政治家としては高潔な人物で、名誉市長で現代の政治家に対して、私は田川務市長のつめのアカを揃べて飲みなさいと云いたいくらい、立派な人で、明治時代に生れた偉人だと今も私は尊敬しております。

なお、山口大司教はこれに対する手紙を8件頂いているとも云われ、市議会では荒木徳五郎さんが存置のために頑張っておられました。

◎証言者 深堀 勝一 (68歳)
長崎市本 [REDACTED]
長崎県被爆者手帳友の会会長



被爆惨状絵図 ㊦㊧号

「大学病院のなかで 私は生きていた」

この画面は 昭和20年8月9日 午前11時30分頃、
大学病院外科㊦㊧号室に私は、同僚を看病しておりました。

その同僚は、昭和20年8月1日 長崎市の爆撃による
事故で、三菱造船で負傷しておりました。

そこで会社では、従業員が交替で負傷した従業員をみて
いたわけでした。

たまたま8月9日は私が当番でした。午前11時過ぎ
ドーンと云う音がして、土煙が上りました。

それから現場が真暗になりました。

やや時間がたって、明るくなりました。ところが、周囲
を見渡すと、すべてが破壊されておりました。

外に出てみると、多数の人が傷つき倒れておりました。

そこで、正門の方に行くと、玄関前の通路に出ると、その
通路には黒こげになった人が、うめいており、又、既に死ん
でいる人も多数いて、足の踏み場もないくらいでした。

それから私は、井樋ノ口を通過して、長崎駅の方に逃げて
行きました。

◎ 証言者 山口 国男

愛知県西春日郡

当時、職業 三菱造船所 傭用工

◎ 証言者 山口 国男
愛知県西春日郡

長崎大学病院 外科 16号室

三菱造船に傭用されていた

8月1日、同僚が負傷したため、その看病に会社
から派遣され被爆した。

直ちに玄関をとおり、本内のスロープを通り、桜の
木が折れていた。

黒こげの人で足の踏み場もなかった。

それから、井樋ノ口を通った。



被曝惨状絵図 才42号

「長崎商業校で、賤津先生助けて!!」

この画面は、故賤津 勝一 先生 ならびに 水江 オケさん
証言によって 製作されたものです。

昭和20年8月7日は、長崎商業には 学校工場として、講堂
ならびに 雨天体操場に 機械が 運び込まれて、魚雷工場の仕事
さしておりました。凡そ 勤員学徒の300人、その他100名の
三菱兵器の従業員でした。原爆投下により負傷した生徒達
が、校庭に散らばって、同じく負傷した 賤津先生に、対して
「先生、助けて」とり囲んだそうです。

やがて 1人死亡し、次に又、1人死亡し、だんだんと生徒が
死んでゆき、何故か、私ひとり生き残ったそうです。

今日になって考えてみると、年が若い人は、放射線に弱く、
年をとった人は、身体が 衰えていた関係で 生きのびたものだ
と思われます。

水江 オケさんによれば 8月11日、油木町に嫁に行っ
ている。姉が心配で行ったところ、この画面にみるような商業学校
の横の田んぼで、被ばくして重症で、8月13日まで、家族6人が
つぎつぎと死亡して、悲しい限りでした。

◎ 証言者 水江 オケ

故・賤津 勝一 長崎市 城山町
(元・商業学校 教員)



no 427

被爆惨状絵図才43号

「私達は岩郷の防空壕で助かった」

この画面は、昔むかし、有名な長崎市岩川町の(宮崎醤油屋(現在の長工醤油の前身)の)前に、高さ20米にも及ぶ岩屋の下に掘られた防空壕です。

大塚万知子さんの証言によれば、当時は8本程度の防空壕が掘られていたそうで、うち2本が町内の防空壕で、高さ2.5米、直径が3米で、長さがその山を突きぬけていたので、30米にも達するものでした。私、大塚万智子、長崎女子商業1年生12名、弟、山田稔が国民学校6年生11名で、2人で防空壕の入口から、かなり奥の方に10米ばかりのところにいるそうです。

原爆の投下により、入口から3米か、4米にいた人は、大火傷をしました。あとで伝え聞くところによると死亡されたと聞いております。私達のように深いところにいた人が、放射線が奥までとどかなかったので、今日まで生きのびていたと思います。やはり、防空壕には、入口に門をつけなければ行かなかったと思います。

後であの岩郷の防空壕で生きていた人が、救人いると聞いたことがありました。

又、多良見町に住む井上礼子さんも一番南側の防空壕にいて助った人です。

井上礼子さんは、兄弟3人で防空壕にいて助ったが、父母は、昼のしの準備をする為に防空壕を出て爆死されたそうです。

井上礼子さんは、防空壕から数米のところにいるそうですが、この防空壕は、コの字型になっていたので放射線の影響が少なかったと思われる。

◎ 証言者 大塚万智子(64歳)

長崎県西彼杵郡香焼町

井上礼子(69歳)

長崎県西彼杵郡多良見町



被爆惨状絵図 中々号

“もゆる 長崎 駅”

私は、昭和19年父が上海においてテロにやられて、死亡したため、上級学校に行かれず、小学校、高等科に行き、勝山小学校報国隊として、出勤しておりました。

昭和20年8月9日午前11時には、現在N・H・Kから少し行ったところで被爆しました。

丁度そこには、憲兵隊司令部があり、枚方の集中機関として、市民にいらみをまかしておりました。

この絵は、もゆる長崎駅と、八千代町ガスタンクを猫いたところでした。

現在のN・H・Kの付近では負傷者が殆んど、逃げまどっていたところでした。

◎ 証言者 小溝 昭七郎

諫早市 永田町

〔当時13才〕
〔65才〕





被爆惨状絵図 第46号

「川の中に飛びこんだとき原爆が」

その日は、朝から警戒警報が出されており、「警戒警報や空襲警報が出た時は遠くへ行かないように。」と親から言われていたため、親に内緒で十数名の友達と川に遊びに行きました。その川というのは、現在の高尾小学校下の川で今のように汚れてはおらず魚も泳いでいるきれいな川でした。その川へ着いて友達の名が「泳ごう。」と言い出しました。皆泳ぐつもりはなかったのに、ヘコ（今でいう海水パンツ）を誰か持ってきておらず、「男ばかりだからいいさ」と皆合意し、裸で泳ぐことになりました。川の村近には田んぼがあり、そこではおばさん達が草とりをしていました。田んぼは今の山里中学校バス通り、本原交差点付近に当たります。そのおばさん達が草とりの仕事が一段落して手を洗いに川へやって来ました。何も身につけずにいた私は恥ずかしくてたまらず、川の中へ飛び込んでもぐった瞬間、原子爆弾が投下されたのです。午前11時02分の出来事でした。

投下されて間もなく、顔を上げて見ると、空は夕焼けみたいに真赤になっており、爆風で山の木は倒れ葉っぱが飛んで来て水面が見えなくなるくらいに川へ流れこんで来ました。「爆弾が落ちたんだ。」と思いました。

普通は落ちてくる爆弾はそこだけが穴があくくらいですが、この時は見送可限り家は崩れていました。

とにかく家に帰ろうと思い、洋服を探したが見つからず裸のまま、友達とバラバラになり家に帰って行きました。

川と下って行くとそこには防空壕があり、近所の人たちが「また爆弾が落ちて来るかもしれない。」と思い避難して来ていました。その時はもうすでに火傷をした人、ガラスの破片で怪我をして血を出している人たちが沢山いました。

その人たちが「今度の爆弾は広島に落ちた新型爆弾が

落ちたんだ。」と言っていました。その頃原子爆弾という事は知らず、知ったのは戦争が終わってからでした。

帰る途中、おばさんの「助けてくれ」と言う声がありました。その人は家の下敷きになっていて、近所のおじさんが助けてあげていたのですが、私は子どもだったのでその人を助けることができませんでした。

家に着いてみると全焼しているなにもかも無く、姉の家の防空壕で生活することになりました。2、3日ぐらいたってからは腹痛をおこし、何を食べても通さず吐き出して、しまい、近所のおばさんから貰った葉も吐き、何も食べる気になれず渡せてしまいました。それから1週間たち、その当時紅玉兵だった兄が洗腸をしてくれました。そのお陰で菌が下り、食事がとれるようになりましたが、洗腸しなかつたら死んでしまったでしょう。

体の調子がよくなり外に出てみると、原爆で亡くなった人の死体が数えきれないほどあり、目とまともにむけることができませんでした。

1ヵ月経たち、原爆症状の1つである髪の毛がぼろぼろ抜け出し全部抜けてしまいました。

原爆のため、父母、祖母、兄弟4人亡くなってしまい、残ったのは兄2人、姉1人でしたが現在は姉1人になってしまいました。私は、現在左宮薬を飲んでおり、妻、2人の娘と幸せな日々を送っています。

川でいっしょに泳いでいた10数名の友達も、4名しか残りませんでした。

今でも原爆症で苦しんでいる人はたくさんいます。もう二度と戦争をしてはならない、あのような悲惨な出来事がおきないように、壊のない世界、平和がいつまでも続くことを祈り続けて行きたいものです。

◎ 証言者 片岡 重昭
長崎市 大園町

< 参考 >

片岡 重昭君が被爆したところが、爆心地からの距離が700米で、普通ならば全員死亡して当たり前ですが、片岡さんが水の中に「ドボン！」と飛び込んでいるため、水が放射線を若干さえぎっているため、被爆51周年を迎える今日も生きているものと思います。

なお、爆心地公園の傍を流れる川に戦後、骨がれと屍いて生き残って泳いでいる20cmばかりの「小魚」20匹ばかりをみました。

又、無傷の「小魚」も多数泳いでおり、水が放射線をさえぎっている好い例です。

◎ 証言者 深塚 勝一 (68才)
長崎市 坂本
長崎県被爆者手帳発給の会会長



DATA
K. LIRA

「浦と川大橋のほとり」

当時、長崎市 飽の浦町の ≡ 三菱造船所 の 機装工場 にいた。
突然ピカッと 稲妻みたいな 鋭い閃光と耳をつんざく音に、
その場に伏したが、砂ほこりのため、あたりは何も見えず、
しばらくは 闇の中にあった。工場は、トタン屋根、トタン壁、
ガラス窓等が 吹き飛ばされ、柱だけの あわれな姿になっていた。
周辺に負傷者が 続出したが、自分は無傷で ホッとした ……

飽の浦町から 自宅(岡町2番地)に向った。 稲佐岳から
豫中(現、西商)の 木造校舎倒壊を 右に見て、城山町へと下り、
ここから 浦と川をたどり、大橋たもと の 自宅跡に到着した。

この城山橋から大橋に至る間の川原には、ことに多くの焼け
ただれた死体が ちらがり、大橋と 並行して 走る 汽車の鉄橋
はし桁は、川底に落下し、その上にかかる線路は ありのままに
曲りくねり、その先端は 空天をさし、大橋の欄干は 吹きとび、
路面には 多くの 穴があいていたが、橋としての 面目は、なん
とか 保っていた。自宅跡屋敷には、五弁炊き 鉄釜と 敷の
裸電線が 地上を 歩いていたが、瓦礫らしいものは 見当らなかった。
ただ、北面の路上に 20数体の 白骨死体を 確認していたが、
その中に、母親が含まれているとは思っても ような なかった。

きっと、家族は どこかに 生きのびているであろうと 一途の
希望を いだいて、毎日、足を棒にして かけつり 回り 探検した。
そして、4日目の 午前中 隣接の M氏に 会った。

彼は、戦後長崎市助役を務めた 故、森田長二郎氏の 長男で

慶大卒の 青年団長 だった。

小生は、会計担当である。被爆後このあたりで 初めての 生存者に
会い 感激 “お、まさとったか、” と 撲撲と 交した。

空襲警報解除後 味噌・醤油の 配給があり、その後しばらくして
からの 原爆投下だから、どこの 家族も 自宅の 近くに いたであろう、

また、岡町ノ組(原ベツ甲周辺)の 拾数名が 岡町と 松山町
合同防空壕(平和公園登り口)に 清掃当番で 参加したが、全員
即死を さげられた。自分は、親族 7名の 遺骸を 一望に 集
めて 見守っているとも つけ加えた。

この言葉は 的中した。前述の 北面路上の 20数体の 白骨
死体の中から 歯形で、虫歯/本もない 父、金の 籠入歯の 母、
2本の 三日月形の 入歯の 妻、そして そのそばに いた 長男を
次々 識別し、更に 自宅跡に 安置、木枝を 拾い集め、加えて
一旦は、空中に 舞いおがり 落下した 30cmの 前後の 木片とて
^{だが} 菜畦に いた。家屋の 下敷となり、咬いさ 求めて であろうに
それに ことえられず” 焼け死 となった ことを 思うと 胸を 引
きさ かれる 思いが する。菜畦 終了後 ^{だが} せがれた 石油缶に
つめたが 涙は 出ず、腰の 力が 抜けて、その場に 尻餅をついた。
そして、次のように つがやいた。

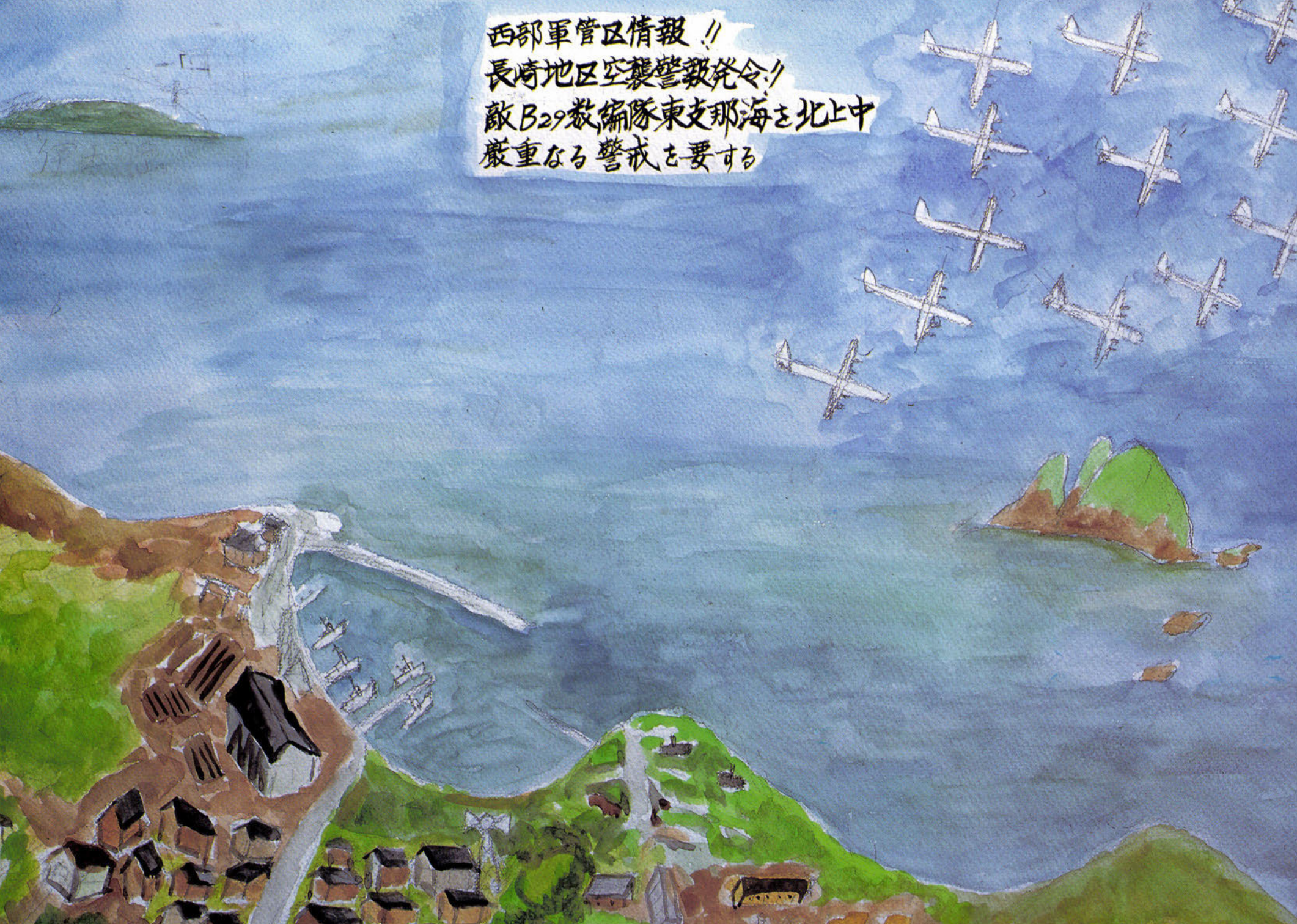
親もなし。子もなし。家もなし。財布に 銭は あったが、これ以上
生きたくもなし、

そして 私 誕生日(8月9日)が 母親 4人の 命日に 取り
かえられたことは 宿命として、あきらめている

◎ 証言者 浦田 健一(ㄱ)

長崎市 橋口町

西部軍管区情報 !!
長崎地区空襲警報発令!
敵B29数編隊東支那海を北上中
嚴重なる警戒を要す



被爆惨状絵図 才48号

「大村海軍工廠爆撃のため
B29 教編隊式見上空通過!!」

昭和19年頃から、支那大陸の成都、桂林にB29の空軍基地が完成した。はじめは夜間に入幡製鉄所を数10回爆撃しましたが、昭和19年10月頃になると、昼間に大村海軍工廠を教編隊30機前後のB29が爆撃に来るようになりました。

西部軍管区情報!!

長崎地区空襲警報発令!!

敵B29 教編隊 東支那海を北上中

嚴重なる警戒を要すると、ラヂオの声に、けたたましく、サイレンが鳴り出しました。

いと、上空を見ると、秋空にひかり輝いた飛行機が、6機、編隊で教組、東の方にゆうゆうと飛行しているのではないですか、「ああ、これは日本の飛行機だろうか? いやいや、違うぞ、これがその名を聞いたB29だ!」

「みんな防空壕に退避せよ!!」

「それにしても、美しい飛行機だねエ。それを云ったらいかん、憲兵隊に叱られるぞ! 恐らく高度は、4000米か5000米で、大村に向って行ったのでした。

このような大村空襲が15回ばかりあって、飛行機生産工場である大村市は、大空襲を受けたのでした。

B29の基地は、その後サイパン島のテニアン島にも建設され、そこから本格的な日本本土空襲が実施され、あの原爆投下も、テニアン島出発だったのです。

なお、中国の殷末若副首相は平成2年9月18日の「長崎の鐘」贈呈訪中団に対して、「中国は、無くなる市民に対して、原爆投下を反対していた」と話しておられたそうです。

◎ 証言者 早川 久人 (71才)
長崎市 式見町 XXXXXXXXXX



成功すれど
原爆の運命は悲し!!

被爆惨状絵図才49号

「兵役忌避工作は成功すれば原爆の運命は悲し」

長崎市には、三菱造船、三菱電機、三菱製鋼、三菱兵器、川南工業と、五大軍需産業の基地でした。

その従業員数などを合計すれば、約5万人に達していたと思います。その為、各企業の戦争貢献度は、重大なるウエイトを占めていたことは容易に予測されることです。

さて、その中において、従業員が兵役に服すると、余人をもって、かえがたい、技術者が多くいたのもまぎれもない事実でした。

そこで、会社においては、軍当局に対して、兵役猶予の申請書を提出して、技術者の確保を実施していました。

その数は、推測するに従業員の数パーセントに達していたと思います。私の知っている人だけでも相当数の人がおられるわけです。ところが、在中、どこにでもドロボーもおれば、サギ師もいるのです。特に軍関係のトップとコネがある人が、この手を使って、兵役義務をのがれたわけです。

その数は、数百人もいたと思います。在中、すまない人のみ、もうかるわけがないのです。原爆の投下によって、爆死した人を私は何人かを知っております。兵役に行っておれば、助かっているものと思ふとき、原爆の運命は多数の人の人生を狂わしたと思います。

◎ 証言者 深堀 勝一 (68歳)
長崎市 坂本 [REDACTED]
長崎県被爆者手帳友の会会長